

鈴子業平竹と、池上・尾崎の両先生

高橋 庄一

明日天気良かったら植物採集に行かないか、と尾崎先生に誘われ、翌日出掛けた。どこでどう集まったかは記憶にないが、最初の採集地は空き家になった鉄道官舎であった。なん軒かの空き家の庭をみて回るうち、玄関先に斑入の竹を見つけた。池上先生が、これは中国原産の竹で日本では鈴子業平竹とゆう珍しい竹である、と言われた。珍しい竹であるならば、空き家でもあることだし、いらなくなったから置いていったのだろう、と勝手に判断し、両先生と小生の三人で引っっこ抜き、三等分し持ち帰った。池上先生と小生が移植したのは枯死。尾崎先生の分だけがかろうじて生き残り、現在も尾崎邸の物干し場の前に繁茂している。その鈴子業平竹の蔓延ったのを引き抜いたり、伸びすぎた幹を剪定したりする度に、鉄道官舎を思い出す。その官舎跡地に鉄道病院が作られ、その病院も現在は取り壊されたように記憶している。現在その場所を通ってみても、鉄道官舎があった場所は見当もつかない。

鉄道官舎を後にして、信濃川沿いに港に向かって歩きながら採集したのを記憶している。港からは何処をどう歩いたかは記憶にないが、砂丘の松林の中で鈴虫草を採集したのを鮮明に記憶している。現在の山の下の地区の下山あたりの砂丘であつたらうか。後年それを思い出し、山ノ下のじゅんさい池付近から新潟空港にかけての松林を、一日かけて鈴虫草を捜し回ったが、一本も見つからなかった。

飛行場に見える砂丘で腰をおろし、おにぎりを頬張りながら、飛行場から飛び立つ米軍のジェット機が、尻尾から黒い煙を吐き出しながら飛び立つのを、飽かず眺めていた。終戦の年の7月下旬か8月上旬かに、新潟が米軍の艦載機の空襲を受けた。その時、たまたま港にいて空襲を受けた、爆弾の投下は無かったが、機銃掃射を受けた。東港線の万国橋の下に逃げ込み無事であったが、風防眼鏡を掛けたパイロットの顔が判る位の低空での機銃掃射は恐かった。その時の米軍機は、ズングリした機体のグラマンと、ほっそりした機体のロッキードで、共にプロペラ機であった。5、6年たってプロペラ機は姿を消し、ジェット機に変わった。

砂丘の上で握り飯を食べたら、新潟港が終戦の年に艦載機の空襲を受けたことを思い出したことを、記憶している。地下足袋を履き、ゲートルを脛に巻き、笠をかぶり、今思えば珍妙なる出で立ちで、肩に胴乱を担いだ三人の姿は、現在ならば周囲の人から奇異なる眼差しで眺められるのであろうが、落ち着き始めたとは言え、戦後の混乱期であつてみれば当たり前のことで、又、まわりの人も他人のことを気にする程の余裕も無かつたであらう。五十年以上

前のことで、小生も紅顔可憐？な少年から青年期の頃のこととて、その夏の日、一日の採集行の記録は一切残っていない。鉄道官舎跡から採集した鈴子業平竹が、尾崎邸に現在も繁茂して残っているのと、尾崎邸より移植した小生宅の竹が、唯一の記録である。

尾崎先生と鳥屋野潟

高橋 庄一

未だ耕地整理もされておらず、鳥屋野潟は満々とした水を湛えていた頃の話である。ある日、先生と二人で潟の植物採集に、おにぎりを持って出掛けた。青いペンキを塗った胴乱を肩に、鳥屋野潟を一巡りし、長潟部落を通つた。胴乱を肩にした我々の姿を見た長潟部落の人が、税務署の酒検査（密造酒の取締）と間違えたのである。一瞬にして部落中に「酒検査が来た」の情報が、漏れなく伝わったそうである。大変ご迷惑をお掛けしたと、今でも恐縮している。一瞬にして部落中に情報が伝わる部落の連帯感、現在失われているように思われる。古き良き時代と思うか、どうかは人それぞれの判断に任せよう。その採集行の時、先生に教えてもらったノボログキは、今でも鮮明に記憶している。

潟の周りに排水機が何箇所もあり、水田の水を鳥屋野潟へ汲み出していた。水位は現在より4?5メートル高かつたので、満々とした水を湛えた潟であつたが、今は信濃川、小阿賀、阿賀野川に挟まれた地域の下水の溜り場となっている。だからといって昔が良かったわけではない。紫竹山の排水機が作られ、鳥屋野潟の水位が下がり、潟でなく下水の溜り場となってしまった。その紫竹山の排水機も今は無くなり、親松排水機になり、その下流に新潟市の水道水の取水口がある。新潟市の水道は旨くないわけである。水田の乾田化にともない、水位はドンドン下がり栗ノ木川も無くなってしまった。現在の栗ノ木川は川でなく、ただの下水路でしかない。板合わせ（板で作った川船）で鳥屋野潟、栗ノ木川を通り、沼垂へ船で行ったもので、昔は板合わせが、物資の重要な運搬手段で、現在の車社会では想像も出来ない事だろう。

5月25日の鳥屋野潟植物観察会に、鈴木女史に誘われ参加し、講師の尾崎先生のお顔を拝見しているうちに、昔の鳥屋野潟の風景が脳裏をよぎり、先生のお顔を眺めているうちに、我々二人共、年をとってしまったの感を強くした。でも、二人共、最初から年をとっていたわけではない。先生と鳥屋野潟の植物採集に歩いた頃は、血気盛んな青年と紅顔可憐な？少年であつたはずである、五十年余も昔から草をいじり、葉っぱの裏に毛があるだの、ないだのたわいもない事に五～六十年も時間を費やしてきた先生も小生

も、アバラッポネが2〜3本足りないのではなからうか？。

小生の持ち時間は、後17〜18年位。残された持ち時間内にどれだけの事が出来るやら。春蘭の花を後17〜18回咲かせると、ぎょめいぎょじ、でお隠れ遊ばさなければならぬのかと考えると、情けなくなるが、これも致し方ない。最後に枕頭に待てるであろう俸に”ああ面白かった有難う”と眼を閉じたい、と考えているのだが、どうなる事やわからない。終

(2005. 7. 12. 新潟市曾野木2-13-9)

尾崎富衛先生からの年賀状

高 橋 務

- 1994年、「ツエルマツト、ゴルナグラードよりマッターホルンを望む：ご夫婦」
1995年、「東蒲原郡鹿瀬町万治峠にて：ご夫婦」
1996年、「オタワ近郊ガテノーパーク：ご夫婦」
1997年、官製はがき
1998年、「カルガルーポー、西オーストラリア、バース北部」「ご夫婦」
1999年、「トゲミマツ（プリスリー・コーン・バイン）カリフォルニア・シェラネバダ：ご夫婦」
2000年、「トゲミマツ（プリスリー・コーン・バイン）カリフォルニア・シェラネバダ：ご夫婦」
2001年、「湯の平温泉の帰り道：ご夫婦」
2002年、「欧州西端ポルトガル山中にて、シャクヤク自生：ご夫婦」
2003年、「マダカスガル（ウオーターヒヤシンス）」「ご夫婦」
2004年、「モーツアルト生誕地の教会前で：ご夫婦」

私が尾崎先生と知り合うようになったのは、1979年に新潟県生物教育研究会の事務局で庶務を担当することになり、事業幹事の尾崎先生と、会運営の打ち合わせをもつようになってからである。

その後、尾崎先生が、新潟市から依頼された佐潟の植生調査（1985）、鳥屋野潟植物調査（1987）に声かけていただき、野外調査に参加した。

1988年には、先生は、新潟県生物教育研究会加茂大会で、「シクラメンの自生地を尋ねて」というテーマで、スライドで地中海ロードス島の植物を紹介されたが、よく知られた園芸植物の原産地での自生の姿は興味深かったし、先生の植物を尋ねる旅が世界に広がっていることに驚いたものだった。

その後しばらく、お付き合いは遠のいていたが、たまたま、近くに存在する知人が、アルプスの花を尋ねる旅で、尾崎先生と一緒にいったといい、後日、アルプスの花の写真が

まとまったので、尾崎先生宅で見るので一緒に行かないかと誘われて、ご自宅を訪れた。

アルプスの花の写真は、素晴らしかった。そして、旅の記念写真と旅行記（ほんのちらりと見せていただいただけ）は、奥様に任せておくのだとおっしゃったが、ご夫婦で花を尋ねるということを共有して、辺境の地を訪ね歩いていることに感動し、羨ましく思った。そこで、ついつい、私も海外の花を見にいきたいと、はかない希みを口にしたら、機会あれば一緒にいきましょうといわれ、植物を尋ねるのにいい旅行社を紹介された。

以来、毎年、世界に花を尋ね歩いた年賀状を頂いた。そして、私の海外に花を見に行きたいという希みは膨らんでいたが、一步を踏み出さないでいるうちに、いたずらに、時間が過ぎてしまい、先生は、冥界の花を尋ねて旅立たれてしまわれた。

尾崎先生からの花を尋ねての年賀状が届くことはなくなった。

「尾崎先生は父の同級生」

戸 田 明

「尾崎先生と初めてお会いしたのは、大学四年春の与板だろうか？じねんじょ会加入はそれから四年後、当時は石沢先生に誘われ、タネツケバナ属があるからと参加しただけで、じねんじょ会メンバーも怖い人々の印象。その後も総会を除けば、採集会で尾崎先生とお会いすることは少なかったと思いますが、20年ほど前か、父に山の話をしていたら、『尾崎は新潟中学の同級生だ』と。何かの折りに、尾崎先生にそう告げると、それからは乏しい機会ながらそれまで以上に優しく接していただき、勝手に『じねんじょ会での父』と思っていました。退職前に病床に伏し、その後は山歩きどころじゃなかった私の父は、よく『同級生の中でも尾崎が一番幸せだったなあ』などと言ってました。その父も尾崎先生よりほんの少し長生きしていましたが、つい先日亡くなりました。』

尾崎先生を偲ぶ

奈良場 正 一

先生がお亡くなりになって、早くも1年余の月日が過ぎました。じねんじょの例会で最後にお会いしたのは、2003年大杉公園のお楽しみ会だったかと思います。

ちょうど当番を渡辺茂さんと二人でさせていただきましたが、新潟からの日帰りは無理とのお話で、渡辺さんがアクーレ長岡に宿を手配され、泊まりがけで奥様と二人で